

■2刷にて修正

p. 18, 第2章「消毒・滅菌の基本」,
表5「殺菌性能の段階的評価法」

修正箇所	「低水準消毒薬」の「真菌」への効果を「±」から「+」に修正。*2, *3を削除						
修正前	表5 殺菌性能の段階的評価法						
	菌種 評価	細菌			真菌* ¹	ウイルス* ²	
		栄養型	結核菌	芽胞		脂質を含まない 小型サイズ	脂質を含む 中型サイズ
	高水準消毒薬	+	+	±* ³	+	+	+
	中水準消毒薬	+	+	±* ⁴	+	±	+
低水準消毒薬	+	-	-	±	-	+	
<p>(Spaulding EH : Chemical disinfection of medical and surgical materials. In : Lawrence CA, Block SS, eds. Disinfection, sterilization and preservation. Philadelphia : Lea & Febiger, 1968 : 517-531. より改変し転載)</p> <p>*¹ 糸状真菌を含まない *² 肝炎ウイルスを除く *³ 消毒薬と長時間接触したときのみ有効 *⁴ 殺芽胞効果を示すものがある + : 有効, - : 無効, ± : 菌種により無効の場合がある</p>							
修正後	表5 殺菌性能の段階的評価法						
	菌種 評価	細菌			真菌* ¹	ウイルス	
		栄養型	結核菌	芽胞		脂質を含まない 小型サイズ	脂質を含む 中型サイズ
	高水準消毒薬	+	+	±	+	+	+
	中水準消毒薬	+	+	±* ²	+	±	+
低水準消毒薬	+	-	-	+	-	+	
<p>(Spaulding EH : Chemical disinfection of medical and surgical materials. In : Lawrence CA, Block SS, eds. Disinfection, sterilization and preservation. Philadelphia : Lea & Febiger, 1968 : 517-531. より改変し転載)</p> <p>*¹ 糸状真菌を含まない *² 殺芽胞効果を示すものがある + : 有効, - : 無効, ± : 菌種により無効の場合がある</p>							

修正箇所

「低水準」(消毒薬)の「真菌」への効果を「△」から「○」に修正

修正前

表7 微生物別にみた消毒薬の殺菌効力

区分	消毒薬	一般細菌	緑膿菌	結核菌	真菌* ¹	芽胞	B型肝炎ウイルス
高水準	過酢酸	○	○	○	○	○	○
	フタラール	○	○	○	○	○* ²	○
	グルタラール	○	○	○	○	○	○
中水準	次亜塩素酸ナトリウム	○	○	○	○	○	○
	ポビドンヨード	○	○	○	○	×	○
	アルコール	○	○	○	○	×	○
低水準	第四級アンモニウム塩	○	○	×	△	×	×
	両性界面活性剤	○	○	△	△	×	×
	クロルヘキシジングルコン酸塩	○	○	×	△	×	×
	オラネキシジングルコン酸塩	○	○	×	△	×	×

*¹ 糸状真菌を含まない

*² バチルス属 (*Bacillus* spp.) の芽胞を除いて有効

○: 有効, △: 効果が得られにくい, 高濃度の場合や時間をかければ有効となる場合がある, ×: 無効

修正後

表7 微生物別にみた消毒薬の殺菌効力

区分	消毒薬	一般細菌	緑膿菌	結核菌	真菌* ¹	芽胞	B型肝炎ウイルス
高水準	過酢酸	○	○	○	○	○	○
	フタラール	○	○	○	○	○* ²	○
	グルタラール	○	○	○	○	○	○
中水準	次亜塩素酸ナトリウム	○	○	○	○	○	○
	ポビドンヨード	○	○	○	○	×	○
	アルコール	○	○	○	○	×	○
低水準	第四級アンモニウム塩	○	○	×	○	×	×
	両性界面活性剤	○	○	△	○	×	×
	クロルヘキシジングルコン酸塩	○	○	×	○	×	×
	オラネキシジングルコン酸塩	○	○	×	○	×	×

*¹ 糸状真菌を含まない

*² バチルス属 (*Bacillus* spp.) の芽胞を除いて有効

○: 有効, △: 効果が得られにくい, 高濃度の場合や時間をかければ有効となる場合がある, ×: 無効

修正箇所	「過酢酸」の「金属器具」への使用を「×」から「△」に修正							
修正前	表8 使用目的別にみた消毒薬の選択							
	区分	消毒薬	環境	金属器具	非金属器具	手指皮膚	粘膜	排泄物による汚染
	高水準	過酢酸	×	×	○	×	×	△
		フタラール	×	○	○	×	×	△
		グルタラール	×	○	○	×	×	△
	中水準	次亜塩素酸ナトリウム	○	×	○	×	×	○* ¹
		ポビドンヨード	×	×	×	○	○	×
		アルコール	○	○	○	○	×	×
	低水準	第四級アンモニウム塩	○	○	○	○	○	△
		両性界面活性剤	○	○	○	○	○	△
クロルヘキシジングルコン酸塩		○	○	○	○	×	×	
オラネキシジングルコン酸塩		×	×	×	○* ²	×	×	
* ¹ CDC Update : Management of patients with suspected viral hemorrhagic fever-United States. MMWR 1995 ; 44 : 475-479.								
* ² 手術部位皮膚消毒のみ								
○ : 使用可能, △ : 注意して使用, × : 使用不可								
修正後	表8 使用目的別にみた消毒薬の選択							
	区分	消毒薬	環境	金属器具	非金属器具	手指皮膚	粘膜	排泄物による汚染
	高水準	過酢酸	×	△	○	×	×	△
		フタラール	×	○	○	×	×	△
		グルタラール	×	○	○	×	×	△
	中水準	次亜塩素酸ナトリウム	○	×	○	×	×	○* ¹
		ポビドンヨード	×	×	×	○	○	×
		アルコール	○	○	○	○	×	×
	低水準	第四級アンモニウム塩	○	○	○	○	○	△
		両性界面活性剤	○	○	○	○	○	△
クロルヘキシジングルコン酸塩		○	○	○	○	×	×	
オラネキシジングルコン酸塩		×	×	×	○* ²	×	×	
* ¹ CDC Update : Management of patients with suspected viral hemorrhagic fever-United States. MMWR 1995 ; 44 : 475-479.								
* ² 手術部位皮膚消毒のみ								
○ : 使用可能, △ : 注意して使用, × : 使用不可								

■2刷での主な更新

p.136, 第4章「対象疾患別消毒法」, VII 指定感染症, ①新型コロナウイルス感染症, 1) 感染経路	
更新前	1) 感染経路 ①飛沫感染, 接触感染により動物からヒトへ, その後はヒト-ヒト感染を思わせる事例が発生している ②食物などを介する経口感染や空気感染も完全には否定できないが, 新型の感染症であり, ウイルスの変異して くる可能性を考えると, N95 微粒子用マスクの着用や感染者を陰圧室に隔離するなどの空気感染予防策の必要性 もある
更新後	1) 感染経路 ①飛沫感染, 接触感染により動物からヒトへ, その後はヒト-ヒト感染の事例が主体である ②エアロゾル感染も疑われており, 特定の医療行為(気管挿管・抜管, 気管切開術, 心肺蘇生, 気管支鏡検査, 誘発採痰など)を行うときは, N95微粒子用マスクの着用が必要になる ③閉鎖空間(航空機の中など)においてはエアロゾルによる感染の可能性も考慮しておくほうがよい

p.136, 第4章「対象疾患別消毒法」, VII 指定感染症, ①新型コロナウイルス感染症, 4) 医療従事者への注意	
更新前	4) 医療従事者への注意 新型コロナウイルスはエンベロープをもつウイルスであり, 消毒薬抵抗性は高くない。しかし, 感染源ならび に感染経路がまだ確定していないため, 標準予防策に加えて空気感染予防策, 飛沫感染予防策, 接触感染予防策 を徹底し, 器具や病室環境の消毒などが必要とされる。 環境消毒の実施においては, N95微粒子用マスクをはじめ, 個人防護具などを適切に着用して行う必要がある (p.172, 173 参照)。
更新後	4) 医療従事者への注意 新型コロナウイルスはエンベロープをもつウイルスであり, 消毒薬抵抗性は高くない。感染源ならびに感染経 路は完全に解明されていないが, 標準予防策に加えて飛沫感染予防策, 接触感染予防策を徹底し, 器具や病室環 境の消毒などが必要とされる。 環境清掃・消毒の実施においては, 基本的にはサージカルマスクの着用が求められているが, 浮遊微粒子の飛 散を考慮して顔に密着する高性能のマスクを着用するなど, 個人防護具を適切に着用して行う必要がある (p.172, 173 参照)。